

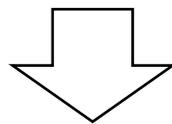
令和3年度 舞鶴市教育環境の在り方懇話会 意見のまとめ

1 適正な学校規模に向けた主な意見

- 知識の習得は、小規模で学んだ方が力はつくと思うが、今から求められる協働的な学びを考えたときに、ある程度大きな集団の中で意見を言えるような学びの場が必要ではないか。
- 小規模校の場合、メンバーと周りからの評価が固定される。どこかで多くの人数と交流する経験を持つことで、変われる機会があるのではないか。
- ある一定規模の学校を子どもたちに準備すべき。これからの社会は多様性が認められる社会。それを担う子どもたちを育てていかねばならず、多様な人たちが集まる集団の中での学習が必要。

2 検討にあたっての懸念の主な意見

- 自分の子どもにしっかり目が届く小規模校に通わせたい保護者もある。大規模校では教師とのコミュニケーションが難しくなる恐れがある。
- 小規模の小学校から標準規模の中学校へ進学する際に、小中連携や小小連携での交流体験が生きてスムーズな進学につながったと思う。
- 学校がなくなる地域からは人口が減り、交通医療防災という観点が希薄になってしまう。学校というコミュニティが持つハブという機能、アイデンティティとしての機能が地域の中に根付いていることをわかっておかねばならない。



3 懇話会の意見を踏まえた教育委員会の考え方

- 全国的な少子化で本市では児童生徒数の減少傾向が続き、クラス替えができない学校や複式学級が生じているなか、小規模校の良さもあるが、子どもの将来を考えると、一定規模の集団の中で切磋琢磨することができる環境を用意することが必要ではないか。
- 複式学級が編成される小規模校の解消に向けた取組が、子どもたちにとってより良い教育環境づくりにつながっていくのではないか。